

カリキュラム区分		現行カリ			シラバス区分		専攻科		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位	
		学年	学期						
助産学実践領域	S111	1年	前期	助産学専攻科	必修		周産期ハイリスクケア論	30	1
							High Risk Perinatal Care		
担当教員									
井上 明子		今村 朋子		瀧本 千紗		松田 修＊	山内 敏史＊	伊藤 美香＊	
関連するDPキーワード									
☐	① 生命の尊厳を基盤とし、助産師としての倫理観と責任感を持ち、対象を尊重することができる。								
☐	② 助産師としての役割や責務を自覚し、助産師であることに誇りを持つことができる。								
	③ 女性のリプロダクティブヘルス/ライツに関する健康課題について、広い視野から支援することができる。								
	④ マタニティサイクルにある対象の個性性を尊重し、対象のもつ力を最大限にひきだすための基本的な助産診断及び助産技術を獲得できる								
	⑤ 女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、地域と密着した子育て支援活動が理解できる。								
☐	⑥ 周産期医療の高度化や多様化する価値観、時代のニーズに柔軟な対応ができる能力を身につけている。								
	⑦ 助産ケアの質の向上を図るために、研究的視点や科学的根拠を活用し、さらに探究する力を身につけている。								
授業目的									
マタニティサイクル各期の身体的、心理社会的なハイリスク状態にある母子や家族の診断および援助について学ぶ。より実践的な知識・技術の習得を目指し、技術演習、事例展開、シミュレーション、臨床推論などの様々な学習方法により展開される授業で学ぶ。									
到達目標（授業目標）									
1. 分娩期の異常やハイリスク妊婦に対する標準的な助産計画を立案し、診断・技術演習で活用できる。 2. 周産期のハイリスク状態にある母子の病態生理に基づいた助産過程が展開できる。 3. ハイリスク状態にある対象者をマタイティサイクル各期の一連の流れの中で理解し、対象がその人らしく、より良い健康状態に向けて過ごすための援助について考えることができる。									
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	ハイリスク妊産褥婦の助産援助：【技術演習】分娩時における医療介入 [井上]								
2回	ハイリスク妊産褥婦の助産援助：ハイリスク妊娠と助産師の役割、施設連携と周産期医療システム、異常徴候の早期発見に向けたリスク査定 [井上]								
3回	ハイリスク妊産褥婦の助産援助：妊娠糖尿病 [伊藤]								
4回	ハイリスク妊産褥婦の助産援助：妊娠高血圧症候群 [井上]								
5回	ハイリスク妊産褥婦の助産援助：切迫早産 [井上]								
6回	ハイリスク妊産褥婦の助産援助：【実践演習】分娩期の正常逸脱事例シミュレーション:前期破水 [井上・瀧本]								
7回	心理・社会的ハイリスク：心理社会的ハイリスク妊産婦と家族のケア [井上]								
8回	産科麻酔と手術：帝王切開のケア、無痛分娩時のケア [瀧本]								
9回	新生児蘇生法：出生時の呼吸・循環の解剖生理		新生児蘇生のアルゴリズム		蘇生の基本技術演習、シナリオ演習		[松田・山内]		
10回	新生児蘇生法：出生時の呼吸・循環の解剖生理		新生児蘇生のアルゴリズム		蘇生の基本技術演習、シナリオ演習		[松田・山内]		
11回	新生児蘇生法：出生時の呼吸・循環の解剖生理		新生児蘇生のアルゴリズム		蘇生の基本技術演習、シナリオ演習		[松田・山内]		
12回	ハイリスク新生児の助産援助：ハイリスク新生児を出産した母親の体験				[井上・瀧本・教育協力者]				
13回	ハイリスク新生児の助産援助：ハイリスク新生児を出産した母親への支援				[瀧本]				
14回	ハイリスク事例の緊急対応：母児の緊急対応:想定外を想定内にする臨床推論				[今村]				

15回	ハイリスク事例の緊急対応：【実践演習】産科異常出血緊急場面シミュレーション	[井上]						
16回								
17回								
18回								
19回								
20回								
21回								
22回								
23回								
24回								
25回								
26回								
27回								
28回								
29回								
30回								
成績評価方法及び基準								
・帝王切開スタンダードプランの作成（20％）：瀧本 ・妊娠糖尿病もしくは妊娠高血圧症候群スタンダードプランの作成（20％）：井上 ・切迫早産スタンダードプランの作成（20％）：井上 ・新生児蘇生前学習小テスト（25％）：井上 ・ハイリスク妊産褥婦に関する小テスト（15％）：井上 各評価ともに6割を合格の条件とする。								
教科書	①小林康江「ハイリスク妊産褥婦・新生児のケア」（日本看護協会出版） ②田村正徳(監修)「日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト」(MEDICALVIEW社) ③横尾京子「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期」（医学書院） ※①については冊子＋eテキストを使用							
参考図書等	授業の中で提示する。							
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）								
事前の計画立案や講義後の修正、技術演習などの時間外学習を必要とする。								
関連科目								
前科目	S103 産産期医学	S104 新生児・乳幼児学		助産診断・技術学Ⅰ ～Ⅲ	S110	助産診断・技術特論		
後科目	S118 助産学実習Ⅰ	S119 助産学実習Ⅱ						
実務家教員								
備考	本科では、予習をして授業に臨むことで学びが深まります。講義や自己学習課題で学んだことをもとに助産学実習Ⅱにおけるハイリスク実習を行います。							